

令和5年度 県立竜ヶ崎第二高等学校自己評価表

目指す学校像	1 社会に開かれた活力と意欲に満ちた学校
	2 確かな学力と豊かな心、健やかな体を育成する学校
	3 社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人材が育成される学校
	4 望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財が育つ学校

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<成果> ○創立100年を超える長い歴史と伝統を受け継ぎ、落ち着いたある学習環境の中で、生徒は明るく伸び伸びとした学校生活を送っている。大学・短大進学者は、前年と比べて42名(27%)に伸び、看護学校をはじめとする医療系への進学者も増加している。また、学校幹旋による就職率は100%に近い。 ○1年次の国語や数学における習熟度別やTTでの授業展開や、生徒指導における段階的指導の導入により、基礎学力及び授業への集中力が向上している。 ○部活動加入率が徐々に向上し入学当初は 50%を超える。そのなかでバスケットボール部をはじめ、陸上競技部・弓道部など運動部で実績を残している。 ○商業科・人間文化科においては、資格取得を目標に、各種検定試験合格に向けた熱心な指導が行われている。4 冠王となる生徒もいる。 ○龍ヶ崎市役所・商工会・地元企業等との交流により、コミュニケーション力の向上が見られている。 <課題> ○My りゅうプロジェクト(県立高等学校等チャレンジプロジェクト)を生かし、地域社会と連携した教育活動を推進するとともに、学科等の枠を超えた3年間の系統的、計画的な探究活動を推進する。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員研修と実践に努める ○基礎学力の定着を図る必要がある生徒が多数入学している現状を踏まえ、習熟度別授業やICT機器を活用するなど、きめ細かな授業を行う。 ○ICT環境を生かした教育活動を展開するための研修を実施し、ICT機器の活用のノウハウを教員間で共有し、連携を図る。 ○生徒の第一希望の進路実現に向けた指導の充実を図る。 ○部活動の内容を充実させることで、加入率の向上を図る。 ○面談や定期的なアンケート、保護者との密接な連携等をとおして、生徒理解に努め、充実した学校生活が送れるよう支援する。 ○昨年の広報状況を分析し、積極的な PR 活動を行うとともに、学校 HP やスクールガ'イド'等による広報活動の一層の充実を図る。 ○会議・委員会等の種類及び回数を見直し、校務分掌や各種委員組織の再編を進め、教職員の業務の軽減、平準化を図る。	確かな学力の育成	① 主体的・対話的で深い学びの実現のための BYOD 端末等の活用 ② 一体化された「指導と評価」の実践 ③ 基礎学力の向上を図るために ICT 機器の活用した授業の実践 ④ 教科等を横断した探究活動を通した課題解決力能力の育成と発表等による表現力の醸成	A
	生徒の希望や目標の実現	① 将来を見通した 3 年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築資格試験の受験支援や課外活動の充実 ② 資格取得試験の受験支援や課外指導の充実	B
	社会で活躍するための基礎的な力の育成	① 生活マナーや規範意識の向上と安全能力の育成 ② HR・生徒会活動への支援や学校行事の充実 ③ 個別面談や定期的なアンケートの実施と教育相談の充実	B
	社会に開かれた魅力ある学校づくり	① ボランティア活動および地域の活動への積極的参加 ② 近隣小中学校との教育交流及び情報交換 ③ 地域と連携した取組を外部への積極的な情報発信	A
	教職員の働き方改革への取組	① ワークライフバランスを意識した教職員の業務改善 ② 取組についての生徒、保護者等への周知	B
	キャリアパスポートの運用	① 過去の進路計画をもとに将来を見通した 3 年間の組織的・系統的なキャリア教育体制の構築	B
	授業改善推進	① 生徒による授業評価アンケートの平均値：3.0 以上をめざすとともに、授業互見を通した各教員のメタ認知力の向上	A

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標	評価		次年度(学期)への主な課題
「三つの 方針」 (スクール・ ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・社会の諸課題に対応して生き抜く力を備えた人財 ・望ましい勤労観、職業観を持ち、地域社会を担うために必要な資質能力を身に付けた人財	B	B	持続可能な社会の担い手として、たくましく生き抜く力を備えた人財の育成を図る。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの幅広い生徒の進路希望の実現	B		ICT を積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びが実践できる授業方法の改善を推進する。
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・学校や社会の規律を守って日常生活を送ることができ、学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動などに取り組む意欲のある生徒	B		本校アドミッション・ポリシーを、学校説明会やホームページでの広報活動を通じて受検希望者に明確に周知していく。
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		
国 語	授業改善を通じて基礎学力の向上を図る。	・生徒の実態を把握し、授業改善を行うことにより内容を工夫した授業を展開する。	B	B	ロイロノートの活用など ICT を積極的に活用し、授業を展開することができた。生徒の主体性を育む授業改善の取り組みを引き続き続けていきたい。 小論文指導については、来年度の新設科目で扱う範囲も考慮しながらよりよい指導内容について検討していく必要がある。
		・漢字、現代文単語等の一般常識分野を学習する時間を継続的に設けるとともに、それぞれの学年に応じて小テスト等を実施し、定着を図る。	A		
	個に応じた指導の充実を図る。	・ロイロノートなどの ICT 機器を効果的に活用しながら、すべての生徒が主体的に学習に取り組めるよう支援する。	A		
		・1 学年普通科で、T T 授業および少人数授業を展開し、個に応じた指導を行う。	B		
	進路に応じた指導の徹底を図る。	・小論文指導について学年と連携をとりながら、進路実現を見据えた指導を計画的に行う。	A		
		・平日及び長期休業中の進学課外参加を呼びかけ、積極的に行う。	A		
地 歴	基礎学力の向上や授業改善を図る	・生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	B	B	新学習指導要領に対応した評価について、年度当初だけでなく、学期ごとに説明を行う。 多様な進路に対応できるように、各種試験の対策も行っていきたい。
		・本時のまとめの内容などから理解度を把握し、授業改善を図る	A		
	思考力・判断力・表現力を育てる授業を目指す。	・主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・I C T 機器を活用し、ビデオや画像などビジュアルな手法を授業に取り入れ、考え気付かせる授業を展開する。	A		
	個に応じた進路実現を考えた授業展開を目指す。	・一般常識の見識を高め、大学受験から就職試験まで対応できる力を身につける。	B		
公 民	基礎学力の向上を図る。	・生徒の実情・興味関心に応じた授業を展開する。	B	B	
		・インターネットやワークシートを活用し、身近な教材を取り入れることによって理解しやすい授業を展開する。	A		

別紙様式 2 (高)

	思考力・判断力・表現力を育む授業力向上。	・主体的・対話的な手法を取り入れることで、深い学びを実現する環境を作り出す。	B		
		・新聞などを活用するとともに、I C T機器を活用しビジュアル教材を授業に取り入れ考え気付かせる授業を多くするなど授業改善を図る。	A		
	政治的教養を高めるための授業展開を目指す。	・新聞・ニュースなどを活用することで、政治的教養を高められる授業を展開する。	B		
数 学	数学的なものの見方を身につける。	・ I C T機器の活用等で授業を工夫し、魅力ある教科指導に努める。	B	B	・複数の教員が関わる授業においての平等な評価の付け方に課題を感じた。 ・理解度に差がある集団においての指導の方法は今後も検討し、基礎学力の向上に努めていく。
		・理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。	B		
	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・教科書に限らずプリントや問題集を活用し、十分な演習を行う。	B		
		・課外や数学検定に積極的に取り組ませる。	B		
		・授業の様子や生徒の授業評価を基にした、ニーズに合わせた授業を展開する。	A		
	進路実現に必要な指導を行う。	・生徒一人ひとりの進路希望に対し、必要に応じて個別指導を行う。	A		
理 科	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・教科書だけでなくプリント等を活用し、生徒達の理解度を確認しながら授業を展開する。	B	B	・実験において、生徒が実験計画を立て、実験を行い、考察までの一連の流れを来年度は重視していきたい。 ・ICTを活用して、自分で調べることでさらなる理解を深めさせたい。
		・ノートや実験レポートの提出を徹底させる。実験レポートに振り返りの項目を設置し、教員の授業改善に努める。	C		
		・演習や小テストを実施し、理解を深める。	A		
	関心・意欲を高める指導法の工夫改善に努める。	・生徒実験、 演示実験を通して理解と興味関心を高める。また、 実験を通して協調性を育てる。	A		
		・グループ活動を通して対話のある授業を展開する。	B		
		・ I C T機器を用いて、動画などを見せ、自ら調べることを通して、科学的な興味を高める。	A		
	進路実現に向けた指導を目指す。	・基本的な問題を通して一般常識の見識力を高める。			
保健体育	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを理解できるようにする。	・各種目のスキルテストや体力テストを通して、個人の習熟度や運動能力の成長を確認させ、授業改善に生かす。	B	B	・ I C Tを活用した授業を積極的に取り入れ、生徒が振り返りやすい工夫をしていきたい。 ・運動時間の確保や生涯スポーツとして運動することの楽しさを得られるようにしていきたい。
		・主体的かつ意欲的にスポーツに取り組む姿勢を育てる。	B		
	公正、協力、責任等の態度を育て、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。	・生活習慣病の予防と運動には大きな関係があることを理解させる。	B		
		・いろいろな種目に取り組ませ、生涯スポーツを見つけさせる。	B		
		・時間やルールを守らせ、自ら進んで活動させる。	A		
	生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。	・健康の考え方や保持、増進について理解させる。	A		
		・適切な食事、運動、休養及び睡眠などが、健康的な生活習慣に必要なことを理解させる。	B		
芸 術	音楽に関する基礎知識や技能の定着を図る。	・単元ごとに小テストや実技テストを行い、定着を確認し授業改善に努める。	A	B	・ICTを活用し、修学旅行に向けて伝統芸能の学習や、鑑賞を行うことで一定の学習効果が得られた。 - 引き続き実技指導にも取り入れていきたい。
		・評価の基準を明確にし、目標を持って積極的に取り組む環境を作る。	A		
	個の能力に応じた指導をする。	・能力に応じて課題を選択できるよう工夫をする。	B		
		・自分の課題だけでなく学び合いの場を大切にし、体験をとおしてお互いに知識・技能を工夫する。	A		

別紙様式 2 (高)

	生徒の主体的な活動を促す。	・ペア練習やグループ発表などの機会を多く取り入れる。	B		・全体指導と個別指導の時間確保とのバランスを研究していく。
		・目標と本時の課題を明確にし、生徒が意欲的に活動するとともに成果を実感できるようにする。	A		
	様々な形で自己表現する場を設ける。	・段階を踏んで個別・ペア・グループ発表を行い、自信に繋げる。	B		
		・お互いの演奏に対して根拠を持って批評できるように、表現力を高める工夫をする。	B		
外国語	意欲・関心を高める指導法の工夫・改善に努める	・ペア活動やグループ活動、ALTとのチームティーチングなどを通して、生徒自身が英語を使用してコミュニケーションを行う機会を提供し、お互いが協力し合う学習環境を整える。	A	B	・昨年度に比べ、生徒がタブレットを使い、発表をしたり録画をしたりすることができた授業があった一方で、ICTの利用はもう少し工夫しなければいけないという授業もあった。 ・ALTとのTTで、ペア授業やグループ活動を、毎週各学年ごとに、ほぼ全学年積極的に行うことができた。
		・ICT機器を用いたパフォーマンステストや発表活動等を通して、個の目標に応じた指導を展開する。	B		
	個の能力に応じた指導を展開する。英語検定の資格取得に努める。	・学力上位層の生徒に対して、積極的に進学課外の受講・英語検定の受検を促し、各生徒の自信に繋げる指導を行う。	A		
	基礎学力の向上や授業改善を図る。	・普段の授業からワークシートや発問のレベルを複数段階設けることで、生徒を飽きさせずさらに上のレベルに上がるような動機付けと支援を行う。	B		
家庭	基礎学力の向上のための授業改善を図る。	・生徒の能力に応じた、教材・教具の開発を図る。	A	A	・各種検定において、実技は合格するけれども、筆記試験で不合格になる生徒が数名いる。基礎学力の定着を図る必要がある。 ・3年「食文化」で、スマート調理台とiPadを使った、実践研究をすることができた。来年度は、他の科目でも取り入れていきたい。 ・本年度から、家庭科専門学科設置校において、探究学習発表会が実施されている。発表を意識した、指導の工夫が必要である。
		・基礎的な学習や実技を繰り返すことにより、基礎学力・基礎技術の定着を図る。	B		
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点で、ICTの活用率を高め、授業の記録を丁寧に残し授業改善を行う。	A		
		・TT授業、外部講師や県のものづくりマイスターを利用することにより、技術の定着を図る。	A		
		・様々なコンテストでの上位入賞を目指す。	C		
	資格取得に努める。	・生徒が各検定に真剣かつ意欲的に取り組めるよう、丁寧な指導を心がけ、合格率90%以上を目指す。また、生徒の向上心を培う。	A		
	社会体験学習の充実を図る。 介護実習 保育実習 学校家庭クラブ活動	・自ら進んで考え行動する能力と責任感を身につけさせる。	B		
		・礼儀や丁寧な言葉遣い、挨拶、マナーを身につけさせる。	A		
		・家庭クラブ活動をととして、地域社会との連携を図る。	A		
		・奉仕活動やエコ活動を通して、環境問題・社会問題に関心を持たせる。	A		
情報	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につける。	・科学的な根拠に基づいた判断力を身につけさせる。	B	B	・タブレット端末の持参を徹底し、授業への積極的な参加を促すこと。 ・生徒の関心を引きつける教材で集中力を高め、実践的な学びの場を実現することが
		・合理的に解決方法を選択する力を身につけさせる。	B		
		・過程を振り返って改善する力を身につけさせる。	B		
		・情報及び情報技術を問題の発見と解決に、効果的に活用するための技能を身につけさせる。	A		

別紙様式 2 (高)

	情報に関する法規や制度、情報セキュリティ・情報モラルの重要性、情報社会における個人の責任について理解する。	・法律や制度・情報セキュリティや情報モラルの意義を理解させる。	B		求められる。 ・データ分析に当たり、根拠のあるデータ収集および分析方法の習得が課題である。
		・バックグラウンドの情報技術を知って適切に対応する力を身につけさせる。	B		
	情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解する。	・人に求められる仕事の変化を理解させる。	A		
		・情報社会をよりよくする方法・対応を考察し提案する力を身につけさせる。	B		
商 業	基礎学力の向上のための授業改善を図る。	・学び直しを含めた基礎学力の向上を図り、生徒の能力に合った授業の工夫や指導方法の改善に努める。	B	B	・生徒の興味・関心を促し、理解を深めるための授業展開の工夫が必要。 ・資格取得がそのためだけでなく、自己肯定感や学習に対する達成感となる様な意識づけが必要。
	職業人の育成を図る。	・キャリア教育として職業人に求められる倫理観、マナーや常識を身につけさせ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを身につけさせる。	B		
		・主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業や実技の学習をとおして、自ら学び協働的に取り組む態度を養う。	B		
	資格取得に努める。	・生徒の能力に見合った基礎級の合格率向上に努めるとともに、より高度な上級資格の取得を目標とさせる。	B		
		・資格取得により自信を持たせ、生徒の学習意欲を高める。	B		
教務部	授業の工夫や改善を図る。	・生徒による授業評価及び、互見授業により、授業の工夫や指導方法の改善に努める。	B	B	・授業時間確保の工夫や行事のあり方を見直す。 ・曜日による授業時数の偏りを調整する。 ・ICT機器の活用についてさらなる効果的な活用を図る。 ・広報活動の定着は、図れたが、一部改善を行う必要がある。 ・図書館利用者及び貸出数の増加に伴い、担当業務の改善を図る。
	基礎学力の定着と学習意欲の向上を目指す。	・習熟度別授業の展開などで、個に応じた指導の充実を図る。	B		
	ICT環境の活用を推進する。	・ICT機器活用のための環境整備を継続し、校内研修を通じてICT機器活用のノウハウを教員間で共有し、連携を図る。	A		
	広報活動の推進と充実を図る。	・本校の魅力をWebページやスクールガイド等で発信するとともに、地域と連携した事業に取り組む。	A		
	図書館利用を促進し、施設の整備を図る。	・書籍や雑誌等のさまざまな情報を収集し、適正な図書の実態に努める。	B		
		・掲示物の工夫や「図書館だより」の定期的な発行により、生徒の興味関心を喚起させ、図書館利用を促進する。	B		
		・図書委員や放送委員を活用し、学校への帰属意識を促進する。	B		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立を図る。	・全職員の協働意識を図り、頭髮及び服装指導の徹底を図る。	B	B	・一年を通して、指導が後手の傾向にあった。生徒事故が起きてから開く部会だけではなく、定期的な指導部会を計画し、教員間の共通理解を図りながら事に当たっていきいたい。 ・寒暑が厳しい気候の際、生徒の服装について臨機応変な
		・登校指導等を利用し、あいさつの励行に努める。	A		
		・スマホ、携帯電話の使用モラルの浸透を図る。	B		
		・集中して授業に取り組ませるための授業環境の改善を図る。	B		
	いじめ問題の未然防止に努める。	・定期的なアンケート調査や面談を実施し、実態把握と未然防止に努める。	B		
	保護者との連携強化を図る。	・学年と協力し、問題行動があった場合は保護者に来校を促し、学校での状況、指導を十分理解してもらった上で、効果的な指導を進める。	B		
	交通安全の推進、意識の高揚を図る。	・バイク通学者の事故未然防止のため、乗車モラルの向上と交通法規の遵守を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

	教育相談の充実を図る。	・下校指導を実施し、坂の安全を確保する。	B		対応をする必要がある。 ・授業環境や生活環境を整え、生徒達が安心・安全な学校生活が送れるようにする。 ・生徒指導部だけではなく、全教員が一貫性を持った指導ができるよう、協力し合う体制を整えたい。
		・自転車の交通ルール遵守の徹底を促す。	B		
		・いつでも、ゆったりとした気持ちで相談活動ができるよう相談室の環境整備を行う。	B		
		・カウンセラーによる教職員研修会を企画する。	B		
		・問題を抱えている生徒の実態を把握し、関係職員との情報の共有化を図りながら支援していく。	A		
進路指導部	適切な進路目標の設定支援に努める。 進学学習の充実を図る。	・進路説明会や講演会、適性検査等をとおして意識の高揚を図る。	A	B	・各学年とも生徒の適正に応じたガイダンスを適宜行い進路意識の高揚を図る。 ・安易な進路決定と決定後の進路変更が起きないように、面談や定期的進路調査、保護者との密接な連絡等をとおして、生徒理解に努める。 ・面接指導のための資料の収集・情報の共有等職員のスキルアップが必要である。 ・求人票のPDF化定着により、更なる情報提供の効率を図る。 ・大学、短大、専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、的確な情報収集に努めたい。
		・的確な各種進路情報を会議資料や三者面談等をとおして、職員や生徒・保護者に向け迅速に提供する。	A		
		・課外授業や模擬試験を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	B		
		・小論文や面接指導の充実を図る。	B		
		・手帳やICT機器を活用し、自己管理能力を育み、学習習慣の定着を図るとともに、よりよい自己管理能力のあり方を検討・実施する。	B		
	就職指導の充実を図る。 (キャリア教育の充実)	・就職ガイダンスや模擬試験をとおして就職試験対策の充実を図る。	B		
		・就職希望者が正社員として就職できるよう、学年の先生方とともに計画・指導を行う。	B		
		・就職希望者の保護者への面談（3年）、インターンシップ（2年）、会社見学を実施する。	A		
	キャリア・パスポートの活用を図る。	・ホームルーム活動や学校行事・進路行事をとおして得たもの等を生徒が振り返る機会を設け、生徒自身のキャリア形成に活用できるよう促す。	A		
	関係機関との連携に努める。	・大学、短大、専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、的確な情報収集に努める。	B		
保健厚生部	環境美化や衛生管理に対する意識を高め、豊かな心身を育む学習環境の整備を進める。	・清掃用具を整備して能率が高まるよう配慮し、ゴミ分別の徹底や綿埃、枯葉等の散乱防止を心がけさせ環境美化への意識高揚を目指す。	A	B	・雨により縮小版で実施したため、消防署の指導がない避難訓練となった。 ・感染症対策と教育相談関連で、保健室の機能が多様化し過ぎていている感がある。 ・毎日の清掃活動により、学校の美化が保たれている。日頃の活動と、先生方のご協力に感謝申し上げたい。
		・安全衛生委員会と連携し、校内設備環境の安全点検を実施し、安全管理に万全を尽くす。	B		
	震災の経験をふまえ、安全確保や危機管理等に関する安全教育を推進する。	・防災避難訓練を実施し、非常時における対応や安全対策に関する知識と意識を高める。	C		
		・学年と連携した保健室運営を展開し、教育相談による心の居場所作りを目指す。	B		
	心身とも健康で、明るく活力のある生活を営む態度の育成を目指し健康教育や学校保健教育の充実を図る。	・学校保健委員会等を通して、生徒の心身の健康状態を把握し、適切な援助と指導を行う。	B		
		・新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症に対し適切な対応を行い、校内での流行を未然に防ぐ対策を講じる。	B		

別紙様式 2 (高)

渉外部	学校、家庭、地域が連携協力できる P T A 組織をめざす。	・ P T A 総会への保護者の協力と理解に努める。	A	B	・ P T A 総会を校内で開くことができた。保護者の積極的な参加を促したい。 ・ 本年度は P T A 広報誌を発行できた。生徒指導委員会と研修委員会の役割について、話し合う必要がある。 ・ 同窓会と連携を図ることができた。
		・ 学校行事への保護者の協力について工夫する。	B		
		・ 各 P T A 組織をととして、P T A 活動を計画実施する。	B		
		・ マナーアップ運動など諸行事への参加協力について、保護者や地域住民との理解を深める。	B		
	各種委員会活動の適正な活動を計画支援する。	・ 広報紙「P T A だより」を発行する。	A		
		・ 祭礼巡視や立哨指導を効果的に実施する。	C		
		・ 有意義な研修旅行について検討を重ねる。	B		
	同窓会との連携を図る。	・ 同窓会活動へ積極的に協力する。	A		
特別活動部	生徒会活動への支援や生徒会主催の学校行事の充実を図る。	・ 昨年度に引き続き、生徒会本部の定例会を毎週実施し、指導助言をととして、生徒会役員のリーダーとしての資質の向上を目指す。また、活動内容については行事毎に P D C A サイクルを行い、作業の効率化や反省等をする。	A	B	・ 生徒会の定例会はほぼ実施できて、行事について多くの意見交換や実施すべき点について話し合うことができた。他の校務分掌ともしっかり打ち合わせが十分ではなかったので、打ち合わせをした上で行事を実施したい。 ・ 部活動の加入率が高くない状況が続いている。地域移行に進んでいく状況の中ではあるが、加入率を上げていきたい。
		・ 文化祭・クラスマッチ・予餞会等の企画内容を生徒自らが検討し責任をもって取り組み、達成感を得られるようにする。	B		
	部活動の活性化を図る。	・ 新入生に向けて部活動紹介を実施し、全員に部活動入部届を配付するだけでなく、体験入部期間を増やして部活動への興味関心を高める。	B		
		・ 顧問の適材適所への配置、適切な予算の配分を行うとともに、外部指導者活用など今後の地域移行への体制を整える。	B		
	ボランティア活動・地域活動への積極的参加を図る。	・ ボランティア・地域活動の募集に関して、わかりやすい情報提供を行い、生徒の主体的参加をうながす。	A		
第 1 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・ 言葉遣いに気をつけ、挨拶を的確にできるようにする。	B	B	・ 主体的な学習態度の育成。 ・ 基礎学力の定着。 ・ 普通科の資格取得に対する支援の充実。 ・ 希望進路決定に対する支援の充実。 ・ 規範意識の醸成と身だしなみ指導の強化。
		・ 時間を守り、規律正しい生活をさせる。	B		
		・ 毎日の授業に真剣に取り組ませ、学ぶ姿勢を育てる。	A		
	基礎学力と学習習慣の定着を図る。	・ 各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	B		
		・ 自らの志望や適性について意識させ、進路目標を持たせる。	B		
	進路目標を設定する。	・ 進路ガイダンスや面談を通して、進路選択の支援をする。	A		
		・ 部活動や生徒会活動、校外活動などへの積極的参加を促す。	B		
	活力ある学校生活を送る。	・ 服装・身だしなみを整えさせる。	C		
第 2 学年	基本的生活習慣の確立を図る。	・ 欠席・遅刻・早退を無くし、規律正しい生活をさせる。	B	B	・ 生徒の実態や状況に応じて学年行事やガイダンスの実施や実施方法について、臨機応変な対応を検討する必要がある。 ・ 個々に応じた進路指導を
		・ 授業への積極的な取り組みを促す。	B		
	基礎学力の向上を図る。	・ 各種検定に積極的に取り組ませ、資格取得を目指す。	B		
		・ 家庭学習や課外授業を通し、進路実現を意識した取り組みを促す。	B		
		・ 面談や進路情報の提供をととし、一人ひとりに合った進路選択を支援する。	B		

別紙様式 2 (高)

	進路指導の充実を図る。	・各種進路行事等の有効活用を図る。	B		行うために、専門科目や志望理由書・面接等の指導に関する協力体制の構築と情報共有が重要である。
		・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促す。	B		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・いじめの未然防止に努める。	B		
		・面談やガイダンスを通して、自らの志望や適性について自覚させ目標を持たせる。	B		
第3学年	進路希望の実現を図る。	・面接指導や面談を通して情報の提供を適切に行い、自らの進路に対して広い視野をもった判断ができるようにさせる。	B	B	・進路指導部と連携を密にし、学年内で進路関係の情報を共有することが大切。 ・早期に進路を意識させ、生徒の進路目標に向け個々の対策を行う。(専門のA0入試) ・学年会を開き、各クラスの生徒情報(進路先)を共有することが大切。
		・進路指導が円滑に進むように、進路指導部や保護者との連携を密にする。	A		
		・日常生活を通じて、時間を守ることや挨拶の大切さ、適切な言葉遣いを身につけさせる。	B		
	基本的生活習慣の定着を図る。	・服装・身だしなみを整え、最上級生としての行動ができるようにさせる。	C		
		・保護者との連携を大切にし、信頼関係と協力体制の構築に努める。	A		
		・授業に真剣かつ積極的に取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	B		
	基礎学力の向上を図る。	・家庭学習や課外授業を通して、進路実現を意識した学習の取り組みを実践させる。	B		
		・学校行事をはじめ、各種活動への積極的な取り組みを促すとともに、下級生の模範となるような態度で臨めるようにさせる。	B		
	社会性・他者への思いやりの心の育成を図る。	・いじめの未然防止に努める。	A		

※ 評価規準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分